

2010年11月発行
(平成22年11月)

千葉県立匝瑳高等学校
同窓会事務局

〒289 2144 千葉県
匝瑳市八日市場イ 1630

TEL .0479 72 1541
FAX .0479 73 6146

代表：鈴木勝彦

平成22年度

定例総会終わる

新会長に 鈴木勝彦氏 (高18)
次期会長は 岩井和徳氏 (高19)

平成二十二年度定例総会は、六月

二十七日(日)に母校体育館にて午前
十時より開催。川口会長、杉浦校長
の挨拶に続き前年度決算、本年度予
算案が承認され、新会長に鈴木勝彦
さん(高18)が選出された。

また、次期会長候補としての副会
長には、岩井和徳さん(高19)を選
出し、他の役員も全員承認された。

なお、総会席上で、小泉泰清氏(高
3)に感謝状と記念品が贈呈された。

総会終了後、石橋忠良さん(高18)
により、「阪神大震災・新潟中越地
震における鉄道の被害と復旧」との
演題のもと、大災害後の復旧につい
て、情報機器を使用して、わかりや
すく説明された。

なお、今回の総会では、ちよつと
したサプライズがあった。それは、
俳優の地井武男さんがとび入りで参
加されたことだ。出席者一同大変喜
び、あちこちで記念写真の撮影があ
り、握手を求める会員も多勢みられ
た。大変充実した総会であった。

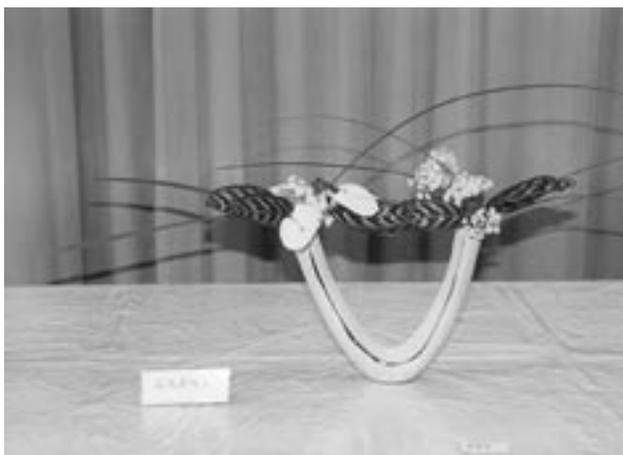


同窓会総会で

展示された

作品の一部

(協力 文化部)



あいさつ

会長 鈴木勝彦(高18回)



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと思います。過日の総会にてご承認いただき、一年間伝統ある同窓会会長職を務めさせていただきますことになりました。微力ではありますが、精一杯頑張りますので、御支援、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

同窓会の主たる目的は、会員相互の親睦を図り、母校の発展を支援するところにあります。

本年は創立86年目、創立90周年に向けて正に基礎固めの年と言えます。若い世代への伝達、事業予算の中心についての見直し等、3点を重点に入れて活動してみたいと思います。

1、現役世代(高22回〜高42回)の同期会活動の現況確認と本部同窓会活動のガイダンス

2、年会費の納入促進と同窓会支出の削減

3、同窓会ホームページの内容の校正と活用の促進

特に若い世代の各学年幹事名簿の作成をはかり、90周年は高22回

生、100周年は高32回生が会長年度で式典挙行となり、それぞれの周年式典の二、三年前から準備がなされることとなります。五年に一度発行される同窓会名簿の最新平成21年版には、高31回〜高47回までの幹事さんの記載がなく、川口明和会長の時から、猿渡前教頭にお願ひし、各学年幹事名の確認作業を致しました。その結果、過日の総会にて基礎資料をいただきました。早速、八月二十四日、高22回〜高42回生までの各学年の皆さんにお集まりいただき会議を持ちました。出席された皆さんには、本校同窓会の現況がいくらかおわかりいただけたと思います。若手の皆さんには今後に期待したいと思います。

高18回生は、卒業20周年の学年同窓会を38才で経験、その後10年毎に学年同窓会を企画、その二次会はクラス会というスタイルでやってきました。各クラス男子3名、女子2名の幹事をおき、クラス名簿を作成、全体事務局を2名おいて学年名簿を保持しております。相談ごとのある時は、5×8組40名の幹事にお集まりいただいておられます。同窓会長を選出する際も昨年一月と三月に集会を開きました。

本年は五月八日(土)に学年同窓会を開催、神戸市立医療センター西市民病院内科部長白鳥健一さんに「これから健康に生きるには」と題して30分の講演と、恩

師鳥飼先生、岡本正義先生をお迎えし、総会のPRをしました。60才定年後の同級生にとって良い企画であったと思います。そして、過日の定期総会には、クラス幹事の声かけにより、76名の高18回生が母校匝瑳高校に集い、遠くは大阪寝屋川から鈴木義明さん、岐阜大垣から向後精二さん、静岡伊豆から旧姓猿渡須美子さんというように……。

会長としての初仕事は学校文化祭への参加。PTA中心のバザーに、同窓会から高13回の先輩と高18回で出品致しました。各支部総会には、四街道支部をスタートに匝瑳会豊和支部、匝瑳支部とまわり、干潟支部、野栄支部、旭匠会、多古支部の各総会でも最大限の歓迎をいただきありがとうございました。ユニークだったのは、保健・看護・福祉・教育の6回生から45回生までの現役女性の会、つたの葉会への出席でした。参加した皆さんの生き生きとしたご意見には唯々感服。さらに、毎年開催される定期総会の立役者、文化部会の会議に参加した際は、生け花、呈茶席、絵画、陶芸それぞれの分野でご活躍されているスタッフの皆さん方のご苦労話が聞けて良かったです。尚抹茶をいただいた時の少々の御芳志が、絵画の氏家先生他の作品保存に使用されると聞き敬服しております。

以上、同窓会長としての上期会務報告と致します。

平成22年度 役員一覧

会長	鈴木勝彦(高18)
副会長	岩井和徳(高19・次期会長) 飯島守(高18・匝瑳会) 堀越正夫(高13・旭匠会) 江畑鎮男(高6・銚匠会) 日下部章(高16・横匠会) 鈴木喬(高18・多古) 土岐四郎(高11・京葉) 伊藤清(高10・東京) 木内幸司(高19・干潟) 平山勝男(高16・野栄) 鶴澤恂一(高9・飯岡)再 椎名英夫(高11・光) 加瀬操(高17・海上) 石毛忠(高9・四街道) 渡邊順一(高21) 伊知地正一(高20) 大塚栄一(高18) 米本雅男(高10) 渡辺幸俊(高18) 馬淵英夫(高10) 岩瀬道治(高24) 林潤(高38)
監事	
総務部長	杉浦雅美(校長)
文化部長	横塚正充(全日制教頭)
体育部長	東城孝(全日制教頭)
会報担当	行木利雄(定時制教頭高28)
事務局長	齋田完(事務主幹)
会計	齋田完(事務主幹)
顧問	川口明和(高17・前会長)
参与	

支部推薦の副会長は、支部で変更された時点で変更になります。印新任、他は留任。

(従来の方々に加え)

平成 22 年度 一般会計予算案

自 平成 22 年 4 月 1 日
至 平成 23 年 3 月 31 日

1. 収入の部

科目	予算額	前年度予算	増減	備考
繰越金	2,822,086	898,029	1,924,057	
会費	3,000,000	5,500,000	▲2,500,000	
入会金	1,026,000	1,038,000	▲ 12,000	全324+定18
寄付金	100,000	250,000	▲ 150,000	名簿売上 (1冊4,000円) 銀行利子
雑収入	50,000	200,000	▲ 150,000	
計	6,998,086	7,886,029	▲ 887,943	

2. 支出の部

科目	予算額	前年度予算	増減	備考
会議費	450,000	460,000	▲ 10,000	総務、文化、幹事 支部、幹事会
事務費	150,000	220,000	▲ 70,000	事務通信費、印刷費
旅費	50,000	30,000	20,000	会務旅費
慶弔費	150,000	200,000	▲ 50,000	役員、母校職員等
振込手数料	50,000	60,000	▲ 10,000	会費振込手数料
会報発行費	4,600,000	4,500,000	100,000	印刷費、発送費 編集会議
補助費	700,000	1,000,000	▲ 300,000	部活動補助、文化祭補 助、教育活動の補助
学校支援費	500,000	1,000,000	▲ 500,000	母校教育活動へ の支援
HP管理費	340,000	400,000	▲ 60,000	ホームページの管理
予備費	8,086	16,029	▲ 7,943	
計	6,998,086	7,886,029	▲ 887,943	

財産目録

平成 22 年 3 月 31 日

現金	109,976
ゆうちょ銀行 当座預金	727,929
ゆうちょ銀行 通常貯金	1,984,181
一般会計合計	2,822,086
特別会計	28,000,000
総資産	30,822,086

備考

前期総資産 33,398,029

当期総資産 30,822,086

差引差額 2,575,943

平成 21 年度 一般会計決算書

自 平成 21 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 3 月 31 日

1. 収入の部

科目	予算額	決算額	増減	備考
繰越金	898,029	898,029	0	
会費	5,500,000	2,662,000	▲2,838,000	
入会金	1,038,000	1,035,000	▲ 3,000	全322+定23
寄付金	250,000	41,000	▲ 209,000	高校6回開本様 和郷園木内様他
雑収入	200,000	289,515	89,515	名簿広告、名簿売上 銀行利子
積立金解約収入	0	4,500,000	4,500,000	
計	7,886,029	9,425,544	▲2,960,485	

2. 支出の部

科目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	460,000	432,398	▲ 27,602	総務、文化、 幹事会、支部
事務費	220,000	138,101	▲ 81,899	事務通信費、印刷 費
旅費	30,000	37,000	7,000	会務旅費
慶弔費	200,000	133,000	▲ 67,000	役員、母校職員等
振込手数料	60,000	33,820	▲ 26,180	会費振込手数料
会報発行費	4,500,000	4,525,447	25,447	印刷費、発送費 編集会議
補助費	1,000,000	537,625	▲ 462,375	部活補助、文化祭補 助、教育活動補助
学校支援費	1,000,000	450,227	▲ 549,773	母校教育活動へ の支援
HP管理費	400,000	315,840	▲ 84,160	ホームページの管理
予備費	16,029	0	▲ 16,029	
計	7,886,029	6,603,458	▲1,282,571	



地井武男さん(高13) 鳥飼顕照さん(中16)

鉄道の地震被害と復旧、耐震補強について

JR東日本 執行役員 構造技術センター所長 石橋 忠良



定例総会で講演する石橋忠良さん

私は、七十年に国鉄に入社しました。七十八年には、仙台にて東北新幹線の建設工事を担当していました。このときに宮城県沖地震を経験し、担当している建設途中の新幹線構造物に大きな被害が生じ、その復旧に携わりました。国鉄時代に二度にわたり勤務したのが構造物設計事務所という部署です。この組織は、全国の難しい構造物や、広く使われる構造物の設計や、災害や事故などの構造物の復旧などの技術指導を担当していました。国鉄の土木技術の中核組織でしたので、やめた後

に大学教授になった先輩も多くなります。この組織でいるいるの災害復旧にかかわりました。その後八十七年に国鉄が民営分割され、私はJR東日本に行くことになりました。最初の四年間は東北地方の工事を担当し、その後、四年間首都圏の工事を担当しました。それ以降現在の構造技術センターの責任者を務めています。この組織の役割は、国鉄時代の構造物設計事務所とほとんど同じ役割を務めています。構造物の計画、設計、維持管理のすべての技術的な相談に社内組織として答える役割です。私自身このような組織での経験が技術力の取得に結びついており、今では若い世代を、この組織を経験させることで育成する役割も担っています。

阪神淡路大震災のときの経験をお話します。九十五年の一月十七日に発生したのですが、私が現地に行ったのは十九日です。この時は既に民営分割の後なので、被害を受けたJR西日本とは私のいるJR東日本は異なる会社になっていました。多くの知人がJR西日本にいますので電話で連絡を取っていました。被害が大きいがわかったことから、JR西日本よりJR東日本へ正式に応援依頼が行われ、それを受けて私が団長として約十五名で十九日の朝に大阪に向かいました。昼過ぎからJR西日本の要請の新幹線の構造物の被害調査を担当しました。私は被害の大きい六甲ト

ネルから大阪に向かい調査をするグループに入り、半分はメンバーは大阪から西に向かつて調査を行いました。夕方



阪急今津線(Bi落橋)写真 2

方に双方が会ってその区間の調査が終わるわけです。このときの感想は、新幹線の構造物の柱が折れ、地表にまで落下しているものもあるなど予想もしていない被害の大きさに非常にショックを受けました(写真 1)。壊れ方は私も多くの破壊実験を見ていたもので、大きな地震が来ればこのように壊れるということとは理解していましたが、このような大きな地震が起こるということは全く想定していませんでした。調査は被害を記録しながら歩くのですが、私は構造物ごとにとどのように直すかということメモしながら歩いていました。被害はひどいが、ほとんどの構造物はそれほど時間がかからず復旧できると考えていました。はたと困ったのが、阪急今津線の上に落ちた長いコンクリートの橋でした(写真 2)。既に壊し始めていました。阪急電鉄に迷惑をかけられないとの判断からです。これを作

り直すには、最低半年はかかるだろうと思いましたが。ほかの区間をどんなに早く直しても、これを早く直さないと新幹線の運行はできません。落下している橋の近くまで行き、状況をよく観察しました。その結果これを再利用しようと判断し、その場からJR西日本に責任者に電話し、壊すのを止めてもらいました。夕方、調査の二班は合流し、車でJR西日本の本社に向かいました。普段なら三十分もかからないでしょうが災害時は渋滞がひどく五時間程度かかり夜十時ころ着きました。翌日は六甲トンネルの西側の調査を依頼されていました



下食満高架橋 写真 1 (二層高架橋の上層部の崩壊)

が、私は残ってJR西日本の対策会議に参加することになりました。翌日の会議のためにホテルに帰って、復旧方法のメモを作り、それを会議で提案しました。壊れた高架橋や橋の柱は作り直すが、ほかの部分はジャッキアップして再利用する案です。多くの構造物の壊れる様子や、壊した後直し方について実験や、実際の多くの構造物のトラブルの経験から十分な方法だと判断しました。多くの破壊実験を見ていたこと、宮城県沖地震で壊れた構造物を短期間で復旧したことなどの経験が役立ちました。まだ国鉄分割から日が経っていないこともあり、ほとんどのJR西日本の責任者も知っていることから、私の提案の方針で、復旧することが決まりました。

復旧に取りかかったのですが、しばらくするとなかなか進まないとの話が来しました。復旧には個々の構造物ごとに具体的な復旧設計図が必要で、これをどんどん作っていかないと現場は動きません。余分な検討は省き、責任者が即決して復旧図を作ってい



補修完成 写真 3

ねばならないのですが、その責任者が誰かわからないために検討のみ多くなつて決まらないようでした。そこで再度西日本の責任者と相談し、技術面の責任者は私になることにし、すべて文章で回答する仕組みとしました。実際は私が常駐することはせず、技術的に信頼できる人に代行を任せました。このときその代行をしてもらえる人として、JR東日本の私の組織のメンバーのほか、かつての国鉄構造設計事務所メンバーにJR各社から集まってもらいました。

このメンバーとJR西日本コンサルタントのメンバーで新幹線、在来線のすべての壊れた構造物の復旧の図面を作成しました。早く復旧するには、施工会社の施工計画も大切です。新しい構造物をつくるのは施工会社は得意ですが、壊れた構造物を生かして復旧するということが建設会社は慣れていないので、建設会社の責任者と仕事の進め方について何度も打ち合わせをしました。構造物の復旧はほぼ一ヶ月、軌道や電気と合わせて概ね二ヶ月で復旧する計画としました。実際の運転再開は在来線が四月一日、新幹線が四月八日となりました(写真 3)。

この阪神淡路大震災の復旧経験がその後多発した地震の復旧に生かされることになりました。

その後二〇〇四年十月二十三日に新潟中越地震が発生します。このとき走行中の新幹線が脱線します。また新しい被害としてトンネルの一部コンクリートがはがれたり、在来線では盛り土が崩壊するなどの被害が生じました。既に高架橋は耐震補強をし始めていたので、新幹線の脱線した付近は補強がなされていま

た。これが幸いし大きな被害とならなかつたのだと思えます。復旧にあたり、復旧方針と復旧の図面はすべて構造成術センターで作成して現場に渡しました。阪神淡路大震災の経験が生かされスムーズな対応ができました。そのあとに、中越沖地震も起こり、大きな地震が続いていますが、それまでの経験が生かされ復旧方針の決定や、復旧図の作成を私の組織で集中して作ることで、比較的スムーズな復旧がおこなわれました。

現在、新設構造物は、阪神淡路大震災規模の地震でも崩壊しないように設計されています。また過去に作った構造物で耐震性能の低いものは、新幹線については全線、在来線については都市部の構造物は、ほぼ耐震補強がなされています。

鉄道構造物以外の被害について話をしますと、一般の住宅については、新しい基準で設計されたものは、被害が生じていません。特に住宅メーカーの造っている新しいプレハブ系の建物は、阪神淡路大震災のときも健全な状況で

した。被害の大きかったものは、古い日本家屋でした。鉄筋コンクリートのビル、八十一年に建築基準法が変わっており、それで降建設されたものはほとんど被害がなく、それ以前のものが被害を受けていました。

技術力の必要性は普段はあまり目立ちませんが、災害など大きなトラブルの時には的確な技術判断が復旧の工期に大きく影響します。恒常的に技術力を維持していく仕組みを保持していくことが大切だと思つていきます。

石橋忠良さん(高18)の受賞歴

コンクリート工学に関する優れた研究に対して与えられる賞、吉田賞の論文部門で二回、研究業績部門で一回受賞。また、橋梁に関する優れた研究に与えられる田中賞の研究業績部門の賞を今年受賞。吉田賞と田中賞の二分野の研究業績賞を受賞した人は初めてである。

さらに、毎年土木全分野から数件与えられる賞、技術開発賞も多数受賞している。

支部総会報告

【匝東会（東京支部）】

平成二十二年四月十七日、アルカディア市ヶ谷ホテル会場にて第十二回匝東会総会が開催されました。

前日の春の大雪にもかかわらず、一〇五名の出席者を得て、匝東会総会は第一部総会、第二部講演会、第三部懇親会と議事が進行され、大いなる盛り上がりを見ました。

第一部総会は、冒頭に匝東



会伊藤清会長の挨拶に始まり

匝東高校同窓会長の川口明和様の地元での同窓会活動を中心としたご挨拶をいただき、その後、匝東高校校長の杉浦雅美様より、昨年度の大学進学状況と今年度母校の入試状況を織り交ぜたご挨拶をいただいた。来賓のご挨拶終了後、匝東会伊藤清会長より、匝東会の昨年度の活動状況を説明し、昨年度の会計及び会計監査の承認を得ました。

また、この一年間で亡くなられた五名の会員のご冥福を祈り全員で黙祷をささげた。

第二部講演会は、同窓（高13回）の新潟薬科大学教授の平山匡男様からテーマ「健康情報・健康食品のウソとホント 賢く使うため」にて講演をいただいた。本日出席の全員の一番の関心ごとである健康がテーマであり、熱心に聴講されました。

第三部懇親会では、主催者を代表して匝東会鍋木靖夫副会長より挨拶。乾杯では、中14回の木川統一郎先輩より、

旧制中学時代の校長の教育方針が、今も仕事で毎月欧米出張もこなす、体力と人格を身につけたとの力強いお話をいただいた。

また、中17回の太田昭吉先輩をはじめ諸先輩より、今でも経済界でご活躍している秘訣をウイットに富んだショー・トスピーチでお伺いしました。

その後、恒例の抽選会（今回は関係者のご協力により外れクジ無し）で盛り上がり、最後に匝東中学校校歌と匝東高校校歌を全員で合唱し、今後の匝東会会員の結束と匝東高校へのバックアップを誓い散会しました。

（事務局・阿部四郎記）

【四街道支部】

七月十日（土）十時三十分から四街道文化センターにおいて、四街道支部同窓会第十二回総会が開催された。

母校本部から鈴木勝彦会長（高18回）が出席され、支部会員二十七名参加のもとに母校及び同窓会の近況について報告がありました。

総会に先立ち、講演会を開催し、現在、四街道市文化財審議会委員・四街道市市史編

纂主任・千葉県郷土史研究連絡協議会会長・千葉県立中央博物館友の会会長・日本医史学会評議員の文学修士樋口誠太郎氏に、「榊海の干拓をめぐる人びと」と題して、講演していただいた。

現在の香取・海上・匝東三郡にわたり、周囲四十kmの広大な湖沼があった。榊海北岸の正賢寺に住む杉山三右衛門が寛永十六年（一六三九）に幕府に進言したが幕府は無視した。その後辻内内刑部左衛門が江戸芝白金台瑞聖寺住職の鉄牛にお願いし、鉄牛は帰依を受けていた老中稲葉美濃守正則に話し、許可を得た。寛

永十年（一六七〇）から工事が始まり長さ十四km、幅二十mの新川が完成し、土俵をどけ榊海の水を新川に流したところ、地響きをたてて流れ込み、井戸野から吉崎浜の村々を襲い半月以上も水につかっていた。幕府の発注工事ではなく、地元の三元締めによる工事であり、完成後は年貢の着服など多くの不正行為が発生、仲間割れによりこれが発覚して幕府の処罰を受けた。この干拓による経済効果は八万石であり、現在に換算すると年収

は約四十億円と想定される。カネに絡む不正は、昔も今も変わっていないのが見えた講演でした。

総会では、支部の活動報告並びに新年度事業計画の報告等が承認され、会長には引き続き石毛忠氏（高9回）が承認されました。

続いて永井義行氏（高6回）の絶妙な司会のもとに、懇親会が行われ、それぞれ出席者全員の近況報告で、話も弾み最後に、石田實氏（高2回）は、腹の底から大きな声が出せるということ、まさに健康であることの証明、詩吟と民謡を披露し、会も和やかなうちに終了しました。

工藤 博孝（高11）

【京葉支部】

五月二十二日（土）正午よりホテルミラマールにて開催
土岐四郎氏（高11）支部長再任

【飯岡支部】

五月二十二日（土）四時より玉の浦食堂にて開催
鶴澤恂一氏（高9）支部長再任

【匝陵会】

六月十一日（金）七時より

吾妻庵にて開催

飯島 守氏(高18)支部長新任

【横匠会】

六月十二日(土)十一時より

富士屋にて開催

日下部章氏(高16)支部長新任

【光支部】

六月十三日(日)二時より

光町公民館にて開催

椎名英夫氏(高11)支部長新任

【千潟支部】

八月二十二日(日)六時より

嘉儀屋にて開催

木内幸司氏(高19)支部長新任

【野栄支部】

八月二十二日(日)六時半より

望洋荘にて開催

平山勝男氏(高16)支部長留任

【旭匠会】

八月二十八日(土)二時半より

旭楼にて開催

堀越正夫氏(高13)支部長留任

【多古支部】

八月二十八日(土)六時より

釜屋本店にて開催

鈴木 喬氏(高18)支部長新任

同期・同好の集い

中16・充緑会

充緑会第48回総会

平成二十二年五月九日、八日市場「百木屋」、八十三歳の同期生十八名参加で開催。昨年より運営委員により、宴会費のみ集金で、通信費・慶弔費などは、前年までの残り会計から支出。

十二時写真撮影、会務報告などの後、懇親会。

和やかな団らんの中、ひとり一言の発表。足腰不自由な者も多いが、お互いの存在感



を確かめながら、明日への希望を語り合い終わる。

毎回の通知と返信文集(今回は七ページ)などは、会長が印刷製本。不参加者もこの情報が把握できて、すこぶる有効です。

総会は連続で四十八回になり、この体制で五十回まで続ける。会員意識などで運営が充実していて、会員は誇りに思っている。

同窓さふさの皆様には、私もが写真つきで毎年投稿して申し訳ありませんが、皆様には短文でも多くの投稿を。

平山 慎一(中16)

匠瑳21・1同期会

平成二十二年五月二十三日日曜日の午後三時半、八日市場駅前の「梅田家」で、恒例の同期会が開催された。出席者は二十五名、昨年に続いて過去最少の記録更新である。

この一年間に、鎌形和さん、渡辺浩さん、岩井要さん、椎名治明さん、平沢幸彦さんの五名が鬼籍に入られた。



記念写真名簿

- | | | |
|------|------|------|
| 杉田利夫 | 椎名素夫 | 林 秀夫 |
| 萩原恒夫 | 向後 忠 | 大木栄一 |
| 川島六郎 | 森 栄 | 石橋 清 |
| 角田利夫 | 宮嶋弘平 | 山本秀夫 |
| 鈴木八郎 | 土屋 壽 | 福岡正夫 |
| 並木達雄 | 高梨育雄 | |
| 飯島崇智 | 渡辺翼一 | |
| 内田裕雄 | 片岡 工 | |
| 野沢 薫 | 林 桂 | |
| 大和義則 | 大関 正 | |

特に昨年八月は十二、十四、十九日と続けて三名が亡くなったのは、異常気象も影響したのだろうか?これで物故者は六十九名、居所不明が十七名、生存者は百十三名(約57%)となった。

同日、同じ梅田家で十二時から「一九会」が開催されていた。我々より一学年下だが、四十名以上が参加していた。昨年の我々は二十八名しか集まらなかったのに、健康な仲間が多いのは羨ましい。

山武地区の四名がぶっつけ本番の幹事として司会・進行をし、記念写真、黙禱、呼名紹介をし宴会に入る。

還暦の頃はそれ程感じなかつたが、一年ぶりの再開がとても貴重で有り難く思えるのは、傘寿という年齢のせいであらうか?

思い出の中にしか生きていない仲間が増えるなかで、生身で語り合える時間を共有できた喜びは一人である。

お互いの現況や、返信に記された欠席者の近況についての情報交換が話題の多くを占めていた様に思われる。

午後五時半、折悪しく雨が強くなってきて、遠方からの参加者が帰りを気にしはじめたので、次回は平成二十三年五月二十二日(日)に旭市ホテル・サンモールで開催することを次ページへ

同級会は、佐久間正夫君が司会進行し、小川章君の開会のことは、幹事の挨拶に続き、恩師に米寿を祝う赤のチャンチャンコ、帽子と扇子のセツトが贈呈され、小川章君が丹精を込めて育て作った寿文字入りの特大ひょうたんを贈呈し、飯島英胤君からは心込めて見繕った記念品の贈呈、そして女性から花束が贈られました。

恩師は「ご挨拶で、こんな立派な米寿のお祝いを開いて頂いたことを感謝します。最近の毎日の生活は、昔に帰って自然に触れる日々を送っており、今後は生徒の皆さんが私以上に元気で楽しい人生を送って欲しい。私は楽しい人生であり生徒の皆さんと会えたことが教育者としては最大の喜びです。」と話され、生徒一同は感極まりました。

東京から駆けつけてくれた飯島英胤君は、現在も東レ、(社)日韓経済協会会長などの要職を担って活躍されていますが、「二年毎に開かれる同級会に期待する気持ちが高い。6回生F組は先生、生徒が三年間一緒であったことで絆が強い。今になっても同級

会が開催出来るのも恩師がご健在で求心力があるお陰だと思っている。これからは先生に負けないように健康に気をつけて先生共々健康で楽しい人生を送って行きたいと思う。既に他界されている同級生も天国で米寿をお祝いしているものと思う。」と挨拶しました。

その後、チャンチャンコ姿の恩師を囲んでの記念写真撮影後、校歌「此處東海の」を高らかに斉唱し、江波戸久君の乾杯の音頭で懇談に入りました。

恩師共々和やかに歓談する中、全国大会出場実績のある江波戸久君が祝い唄「さんさ時雨」を熱唱し、奥積発尉さんがこの日の為に作詞した詩吟「恩師めでたく米寿を迎えわれた一同吉日に集う。師友杯を交えて期す 百歳の春」を含め二曲を吟詠し宴を盛り上げました。

宴は和気藹々の雰囲気ながら尽きることがありませんでしたが、二年後の恩師の孕寿と私達の喜寿での再会を約し渡邊一泰君の閉会のことばで閉会しました。

和田 昭男(高6)

高8同期会

高校8回卒の同期会は、地元・東京・千葉の三地区持ち回りで、それぞれの地区が立案し、毎年開催している。平成二十二年度は、八日市場を中心とした地元の幹事が準備し、八月十九日、成田ビューホテルで開催された。毎年このことではあるが、出席者は再び喜び、ロビーや会場では話はずんでいた。締切りまでは六十一名の申し込みがあったが取消しの連絡が入り、当日の出席者は五十三名であった。聞けば、皆さんそれぞれもつともなご事情があり、ご都合がつかなくなつて



しまつている。来年の元気な再会を期待したい。

開会に当たり、まず二十一年、二十二年にご逝去された七名の同期生に黙祷を捧げ、ご冥福を祈った。続いて同期会会長の同期会準備の経過、六月二十七日に開催された匝瑳高校同窓会総会の概要、恩師の土屋潤先生の行年九十七歳でのご逝去等の報告がなされた。土屋先生には、英語の授業の際、高性能の大きな重い立派なテープレコーダーを教室に持ってこられ、音声指導をしていただいた。当時としては、音声指導の大切さを念頭に置かれた、大変先進的なご指導であった。

次に、来年の開催担当は東京地区となるので、東京地区代表から再会を約しての挨拶。乾杯の後、懇親会に移る。何十年ぶりに再会した人、一年ぶりに再会した人、名札を確認しながら話しかける人。しかし、同じ学舎で三年間過ごした間柄、直ぐに話に花が咲く。あれやこれやの和やかな語らいも瞬く間に時間が過ぎ、一次会お開きの校歌の時となる。我々高8回生は、二年の時は「此處東海」で

始まる校歌や体育祭の応援歌「風蕭々と松を吹き」で青春を過ごし、三年は、創立三十周年を記念して制定された「桜花咲き散るかげに」の校歌で卒業した。両校歌とも我等の懐かしい校歌である。

二次会は、成田ビューホテル内のモンルポで、ほぼ全員参加で、さらに盛り上がった。井上 洋一(高8)

高10同期会

昭和三十三年三月卒業(10回卒)の同期会を平成二十二年二月二十五日に成田ビューホテルで開催。同期は三十三名が卒業、そのうち二十七人(男性二十、女性七)が鬼籍に入りました。

左記は、世話人代表挨拶に代えて出席者にお配りした口上文です。重複しますが欠席された方々が多いので、当日の様子のご報告とさせていただきます。あわせて校友の皆様にも10回卒組のことをお知らせ申し上げます。

みなさん、ようこそお越しくださいました。七十五人の方々をお迎えてきて、世話役として本当にうれしく思います。

私たちの大方は七十歳、同窓会という「字面」が青春時代の大事な忘れ物を捜しに行くとような気持ちにさせる、そんな年恰好なものでしょうか、いろいろある中で、きょうのそれは特別です。

長い人生の、そのうちのわずか三年間、しかもクラスを超えたとかなか「縁」が結ばなかった短い時間だったんだけれども、多感な成長期に刷り込まれた「習性」が、自分らしく生きられる年代になつて、そのままに現れてきた感があるのは私だけでしょうか。

思えば、人生の中で自分らしく生きられる時間はそう長くはない。自分を殺して会社や組織、あるいは地域や国に、あるいは夫や妻に依存してきました。高度成長期は、幸いにしてそれが結果的によかつたのだけれども、義務的な諸々から解放されてみて、介護して、介護される迄のわずかな健康時間こそ、私たちの大事な持ち時間でありましょう。今日、みなさんと一緒に過ごせるこの時間がゴールデンプランであることに間違いありません。

きょうは、「これまでの自分の人生、そう悪くはなかつた！」という思いをみなさんと一緒に感じたいと思つています。

「終わりよければ、すべてよし」とはシェイクスピアの言葉だそうですが、世界共通の価値観だと思います。まだある終わりまでの猶予期間を学年同窓の誼においてお互いに切磋琢磨でいこうと、ここにご提案したいと思つています。

本日は下記のように、かなり略式で進行することになります。歓談の時間を長くつてあります。世話人に至らぬところがあるうかと思つていますが、お許しただきたいと思つています。

開 会 十三時
閉会予定 十六時

開会の言葉
物故者に対し黙祷
世話人からの歓迎の挨拶

乾杯
歓談

校歌斉唱

なお、お断りしておくべきは、前回の学年同窓会もそうでしたが、恩師をお招きすることは斟酌し、われらが内輪

にとどめさせていただきましたのでご了承ください。

世話人
椎名英子、越川紀子、大三川博通、大木豊、内海利子、浅野悦子、江波戸淑枝、平川邑江、和井内行子、京藤光輝、平山豪、桜井茂知、平野登世司、佐藤弘之、磯部誠一郎、稗田正治、赤浦専太郎、伊藤稔、岩間正、角田恒定、柏熊庄一、小西伊平、信太定子、菅谷稔、鈴木博、馬淵英夫、米本雅男 (順不同)

匠高無線部OB会
匠高高校10回卒学年同窓会
世話人代表 平山 豪

匠高無線部OB会

九月二十九日(水) 正午、旭のホテル・サンモールを会場に五回目的匠高無線部OB会を開催する。

昨年は台風に見舞われて散々だったが、今回は雨と雨の間の晴天に恵まれた。

案内状は旧無線部員等四十名に発送する。返信の結果は死亡と不明が各一名で、参加と不参加が各十九名となった。

前日の雨で行事が繰り越され参加出来なくなった人の他会場には、十八名の顔が揃つ

た。

京都から林邦夫さん(高11)那須塩原から越川久義さん(高11)が貴重な時間と会費の数倍の経費をかけて参加してくれた。また岩崎一好さん(高2)、石毛福寿さん(高7)、加瀬進さん(高8)、越川久義さん(高11)の四人は初めての参加だったが「何となく敷居が高かったが勇気を出して来てみて本当によかった。」と言っておられた様に、あの階段下の部屋で過ごした青春の日々が共通の話題となつて年齢差や環境の違いなど全く

感じない集まりになつた。

体調不良が欠席の理由の多くを占めている中、参加者にも脳梗塞などの病から立ち直つた者が数名あり、会に参加できて皆と会つて語り合える喜びと幸せを確認しあつた。修学旅行に参加しないで、その積立金を持つて二人で秋葉原へ飛んで行つた。などと半世紀前が昨日の事のように思われる懐かしくも和やかな歓談の時間が流れていった。

見えないゴールは確実に近づいているが八十歳の平均余命はまだ八年あまりあるそうなので、もう少し集まる機会がつかれそうな気がする。

今回参加出来なかつた仲間とも是非オシャベリしたいと切に思いながら午後二時半解散した。 大関 正(高1)

後列 第二列 前列
右から 右から 右から

- | | | |
|-------|------|------|
| 菅谷 稔 | 武田重善 | 大木正己 |
| 石毛福寿 | 大関 正 | |
| 林 磐 | 林 秀夫 | |
| 江波戸浩己 | 岩崎一好 | |
| 飯島信雄 | 松澤 稔 | |
| 越川久義 | | |
| 加瀬 進 | | |
| 米本雅男 | | |
| 林 邦夫 | | |



第5回・匠高無線部OB会 2010. 9. 29 旭市ホテルサンモール

保健・看護・福祉・教育の集い 『つたの葉会』開催

平成二十二年八月二十八日(土)、杉浦校長先生や鈴木同窓会長さんのご挨拶をいただき、第五回『つたの葉会』が開催されました。

今回の参加者は、職場での管理者や責任者として現役の方、退職後も専門職を活かして引き続き活躍されている人など様々でした。

現在の日本は高齢化社会まっしぐら。多くの訪問看護ステーションが誕生したものの曲がり角にあり、危機回避の対策として国の助成を受けて実態調査に海匠地区が選ばれ、種々の検討会や研修会を重ねてきました。その中心で活躍している人がこの会にいました。千葉県としても更に充実すべく次の段階に向けて進めています。

大所高所からのアドバイザーがいる事とそれぞれが仕事の質を高めながら活躍しており、この会のネットワークにより個人の仕事の質を更に高める事に有効に機能している事を考えると、「生きている」

と感じますし、この会の存在を誇りに思います。某定年退職者は、企業家のように高齢



== 出席者 ==

- | | |
|----------|-------|
| 外口 玉子 | 山本 初江 |
| 代市 邦子 | 渡辺千恵子 |
| 鈴木 悦子 | 石原 照子 |
| 大木 信子 | 渡辺恵美子 |
| 塚本 清江 | 菱木 秀子 |
| 小川 雅子 | 穴澤加代子 |
| 阿曾由美子 | |
| 校長 杉浦 雅美 | |
| 会長 鈴木 勝彦 | |

化社会の隙間を埋める新たな事業を語り、経験や知恵を社会に還元するエネルギーを感じました。全出席者の話にはただただ感心するばかりでした。

8から35回生迄、幅広い年

**実感『同窓さふさ』のすゝめ
〜奇跡的な出会いと、新たなご縁〜**

六月初旬、同窓さふさ(第41号)が郵送された。早速、満開の桜のフロントページをめくると、私の駄文が大きな写真を添えて掲載されていた。「事務局で適宜カット、編集してくれろ」との勝手な思い込みで、思いつくままの殴り書きの雑文が全文掲載されており、おどろぎと、うれしさ、恥ずかしさが複雑に絡まった心境で読む。

その日の夜、一年生の時の同級生、飯島守氏(高18)から「宮内らしい文章。私(飯島)は同窓会副会長に就任する予定、役員会で『若い卒業生からの、同窓さふさへの投稿が少ない』が話題となっていた、グッドタイミング」との電子メールが届き、その翌

年齢の人達が一同に会し、いのちに関する貴重な意見交換があつて大変有意義な会になりました。この会から何かが始まるかも知れません。

渡辺千恵子(高18)

日には、恩師である同窓会参与でもあられる、鳥飼顕照先生(中16、日本史)から「天気象部の実績、諸先輩の事績、在校生への励まし、同窓会会報に相応しい。合格」とのおほがきを頂戴し恐縮する。その後「写真が良かった、薫の絡まる校舎がなつかしい」「百葉箱を覗き込む君の後ろ姿を思い出す」などの便り。「えっ、君が岐阜の氣象台長だったの。氣象庁も人材が尽きたか、あつははははは」と、冷やかしの電話もうれしい。

そんな中から、びつくりする話を二つ。まずは信じられないような奇跡的な出会いから。ひょんなことから近くの日赤病院へ入院。すると三十

代のチャージミグな看護士さんから「宮内さんは、匠高校のご卒業では」と声をかけられ、突然のことにびつくり。訊けば「先日、義母に送られた『同窓さふさ』を拝見。最近のことでもあり、名前(秀)もめずらしいので覚えていた。薫の絡まる校舎、すてきですよ〜」と、暫し華やいだ時間が流れた。

もうひとつは「突然の便りで失礼、私は匠高校10回生...」の書き出しで始まり「田島成昌氏の講演を匠高校で聞いた思い出」で締め括られた、几帳面で長文のお手紙を平野登世司氏から頂戴。平野先輩は氣象庁(銚子地方氣象台)に二年余り勤務された後、千葉県警察官に転じられ、平成十一年三月ご退官。今は悠々自適で、街道歩きなどを楽しまれている由。同封されていた警察大学校友会会報には、平野先輩のご投稿が掲載されていた。先輩が踏破した五街道(東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道)を縦系に、街道の宿や並木道、峠越えなどを横系に編まれた紀行文は圧巻。

赤桐 操さんを偲ぶ

品村 晃祥 (中14)



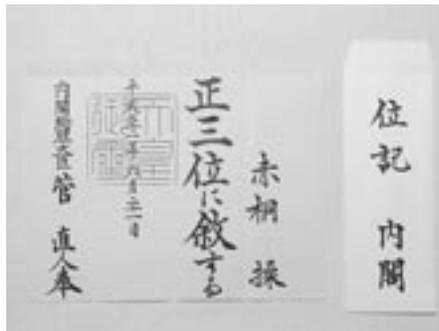
元参謀院副議長の赤桐操さんは、旧制匠瑳中学の先輩である。私の入学した時は最上級生の五年生でした。

小学校を卒業したばかりの子供っぽい少年から見ると五年生は、大人のように見えて近より難かった。

赤桐さんは総武本線の銚子から、私は千潟駅からひと駅だけの汽車通学であった。

一番前の車輛は女学生で、二号車から一年生、一番後ろの方に五年生が乗ることになっていた。八日市場駅につくと跨線橋に一年生が一番近い

ので改札口を出て北側の駅前広場の前に一年生、あとから五年生が出てくると五年生の団長の号令で四列縦隊で約二キロの道を歩き、校門に入る



時は校長室の御眞影奉安殿に対し「頭左」の号令で礼をして校舎裏のグラウンドに向った。手前の控室に学年毎の靴箱があるのだが、入り口に小さな木の棚があり、生徒はそこに白いカバンを置いて、そのまま朝礼台の前に東から一年生、西に五年生の順にならび、先ず宮城を遙拝し、次に校長の訓示が毎日あった。雨の日は控室で行った。担任がクラス毎に出席をとり解散し始めて教室に入った。

赤桐さんは五年生途中から病気で休学され、翌年復学なさった。私はほぼ五年近く一緒に通学したが、その間赤桐さんを知る機会はなかった。選挙に出るに当って赤桐さんは徳人で入学した時の同級生と卒業した時の同級生が共に同級生として後援会を作り応援した。

私の家の北三百メートルほどの所に赤桐さんの同級のTさんが住んでおられ、赤桐さんは銚子に帰られる時には先ず私の家に挨拶され、その後必ずTさんの所に寄られた。Tさんは戦争で下半身が失われ車椅子で外出されていた。



同窓会総会の時には私を呼んで、同窓生の職員用にとビール券を下さり、校長には教員用にと別にビール券を置いてゆかれた。

私どもの地方は圧倒的に保守の地盤であるが、社会党の赤桐さんは別格で、同窓生挙げて応援した。それは私より十年先輩の桜井茂尚さんが衆議院選に社会党から出られた時も旧二区的全員自民党の一角をくずして当選した時も、同窓会をあげて応援したが、初めて選挙の経験をした同窓会幹部は、私を含めて多数検察庁に呼ばれて取調べを受けたが、ひとりも罪に問われず公民権停止も受けなかったことは幸いであった。十年ほどあとの赤桐さんの

前頁より

今こうして、拙文への反響を振り返ると、その波紋の大きさに圧倒され、匠瑳中・高卒業生の拡がりの大きさと深さ、そして、それを結びつける『同窓さふさ』のすばらしい威力を実感している。

ご卒業生の皆様も是非一度、学生時代の思い出やエピソードをご投稿されてはいかがでしょうか。奇跡的な出会い、新たなご縁が生まれますよ、きつと。
宮内 秀 (高18)

時には用心もしたが、一人も違反者は出さなかった。私は戦後長い間赤桐さんに近く接して人情味あふれる人柄にも感銘を受けてきた。新聞でその訃報に接し、お通夜と葬式に出て行って焼香して帰ったが、今はただご冥福をお祈りするばかりであります。赤桐さんいろいろと有難うございました。

赤桐さんは、いつも母校や同窓会のことを気にかけていてくださり、今年の総会に向けて、母校と同窓会へそれぞれ三万円の寄付をいただいた。

コロボ作品 その後

皆さん、こんにちは！私は昨年(第40号)にイラストレーター*クジラノソラ*さんこと寺尾めぐみさん(高49)とのコロボ作品を掲載させて頂きましたシンガーソングライターの「ツキコ」こと大櫛(旧姓・岩内)雅子(高49)です。

今年の二月十一日(木・祝)私の通っていた世田谷区駒沢にあるミュージックスクール「M Bank(エムバンク)」主催の懇親会&ライブにて、「ヤゴのうた」「想い出の道」の二曲を歌わせて頂きました。ライブ会場は大田区大森にあるアコースティックライブバー「風に吹かれて」です。「ヤゴのうた」はM Bank講師の丸山圭子先生のご指導のもとに作らせて頂きました。昨年春、小学校二年だった娘が生活科の授業でとってきたヤゴを、娘よりもムシキチな私が一生懸命に育てていたのですが、そのヤゴは羽化に失敗してあえなく命を落としてしまいました。私はし

ばらく悲しみから立ち直れませんでした。一緒にいた期間、小さな小さなヤゴから目には見えないけれども大切なことをたくさん教えてもらったよ、ありがとうという思いを込めて作りました。

詳しい記事は、私のブログ「ツキコの徒然日記」の一月三十一日付記事、「ヤゴのうた 誕生秘話」をご覧ください。
<http://ameblo.jp/antress/>

「想い出の道」は長野県松本市内のライブハウスやイベントを中心に活動されているバンドでギターを担当している私の友人が作詞・作曲しています。私がこの曲を初めて聴かせて頂いたのが約七年前で、それ以降は「お蔵入り」しているという話をうかがいました。私は、その時、ちょうど音楽を始めた頃だったので、「こんないい曲がお蔵入りなんてもったいない。この曲を必ず出世させるから、下さい」と頼んでちゃっかり頂いてしまいました。ふだんは忘

れがちな「当たり前にある身近な幸せ」に思いをはせながら聴いて頂けることと思います。

二曲の音源につきましては、先にご紹介した私のブログ(二月二十二日付記事)にてYouTubeでアップしています。二曲ともとても素敵な曲なので、ぜひ聴いて頂けるとうれしく思います。

今回の投稿の「ヤゴのうた」の歌詞カードは、昨年十一月に娘の通う上鷺宮小学校の開校三十周年記念行事で歌わせて頂いた際に、来賓の皆様にお配りしたものです。イラストはもちろん、前回投稿して下さった*クジラノソラ*さんです。トンボの背中に乗っている子供のモデルを私の娘にして下さいました。本当にありがとうございます。彼女のイラストは、とってもかわいらしくふんわりとした優しいタッチで、見ている人の心を穏やかにしてくれてい



ます。

彼女のホームページもぜひご覧ください。
URL:<http://kujiranosora.web.fc2.com/>

「私の人生に、音楽は不可欠。音楽をやらない私は私ではない！」と気づきはじめたのが高校生の時でした。高校時代、私は吹奏

楽部、音楽部、華道部に所属していましたが、二年生時の文化祭で、音楽部の発表として歌わせて頂いたことがきっかけです。

あの時の緊張感と高揚感、私にとつて忘れがたいものとなりました。私の原点は高校時代にあ

「ヤゴの歌」
作詞・作曲：ツキコ

1. ヴェツの羽が舞えるように
ヤゴが動かなくなった
胸が空した日から
大人になって 飛んでいくまで
太陽に照らされて お花たちに囲まれて
気持ちよそくに飛んでいる
天国でトンボになった君
目に映えないいつかは 今も生きていますよ
私の心の中に 驚きと涙の中に
君から学んだ優しく 大切に守っててよ
君を愛てる風流からい 溢れ出る秋の空
2. 目撃 思い出ですか 思い出で涙はたくさん
君の懐いている僕は 飛翔の心で生きて
甘い夢のオシロイバナ 君色のマツマツタン
あの頃の、君の背中に乗ってどこまでも
翼を伸ばした君が くれた夢のメッセージ
「すべての出来事には意味がある すべての出来事は意味がある」
今でも思い出は 思い出ままで
君のために歌うから 「ありがとう」の風流を込めて
君のために歌うから 「ありがとう」の風流を込めて

©2008 M Bank
大塚 雅子(おぐら) 雅子
2008年にM Bankを退社し、独立して音楽をする。
自分自身が音楽が「楽しい」ことこそが、
活動の「目的」として活動している。
E-mail: antress@antress.com
Blog: <http://ameblo.jp/antress/>

ります。匝瑳高校に入学できたことに心から感謝いたします。また、匝瑳高校の生徒であったことを今でも誇りに思っております。

一時は音楽を続けることをあきらめて違う道に進みましたが、子育ても一段落し、改めて自分というものを見つめ直した結果、私にとって一番大切なものは、やはり音楽のだと気づきました。その時から、私の人生は百八十度変わり、「本当の幸せ」に近づいているのです。

お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(平成22年9月30日受付分まで)

《恩師逝く》

鈴木 直實先生(理科)

平成22年2月1日逝去

昭和31年〜42年在職

千葉市中央区都町二二二五

一三一

越川 協さん(中16)

平成22年7月14日逝去

横芝光町谷中一九五八

新行内昭二さん(中17)

平成22年6月19日逝去

旭市口一八六二

石毛 正治さん(中18)

平成22年2月9日逝去

横芝光町横芝七八一〇二

石毛 徳治さん(中18)

平成22年4月19日逝去

稲毛区黒砂台二一九一六

平澤 幸彦さん(中21)

平成22年4月5日逝去

旭市清和甲三四

平山 清さん(中11)

平成22年4月27日逝去

花見川区検見川町三二三〇

八一五

越川 勝夫さん(中21)

平成22年4月10日逝去

市川市北方二一三七一一九

鶴澤 行雄さん(中22)

平成22年4月2日逝去

横芝光町横芝一四九〇一二

作佐部 兮さん(中15)
川口市南前川二一一九一一

椎名 治明さん(高1)

平成21年8月19日逝去

横浜市港南区港南台二一一

一七一六〇六

土屋 憲司さん(高3)

平成22年8月18日逝去

稲毛区長沼原町二五六一一二

六

岩瀬 金一さん(高4)

平成22年3月8日逝去

銚子市港町一七二一一三

野中 仁康さん(高4)

平成22年5月11日逝去

銚子市妙見町一四七四一五

佐藤 博さん(高5)

平成20年2月逝去

さいたま市桜区道場一三

一二七

林 美佐子さん(高5)

平成21年5月3日逝去

旭市八一五〇

宮嶋 利弘さん(高5)

平成21年1月15日逝去

旭市横根一二八八

椎名 肇さん(定昼1)

平成22年7月2日逝去

匝瑳市横須賀七七九

堀江 孝勇さん(高7)

平成20年7月23日逝去

横浜市港北区新吉田町二〇

二八一一二四

吉田 喜昭さん(高7)

「悲運しかいよいよ」がなし」

成田空港で出発見送る記者に笑顔

旭出身のオートバイレーサー富沢祥也さん(19)が、イタリアで9月5日に行われたグランプリ(GP)モト2クラス(600cc)の決勝レース中の事故で亡くなった。

平成21年12月24日逝去
中央区登戸五一一〇一一二
待を担い、疾走してきた若者の突然の悲報に地元は大きなショックを受けた。

富沢さんは4歳のころからポケットバイクに親しみ、小・中学時代にミニバイクレーズでめきめき上達した。

高1の06年には全日本選手権125cc級にデビュー。08年、同250cc級で総合2位となり、高校卒業後、単身渡仏。4月の開幕戦カタルGPで念願の初優勝を飾り、世界各地を転戦し、イタリアで12戦目だった。

習志野市谷津三一四〇
一二〇八
〔成田良敬〕

富沢 祥也さん(高61)
旭市江ヶ崎一〇五八
毎日新聞 9月8日より
(千葉版)

さふさ41号は、全会員には配布されなかつたので、42号に41号の会費納入者一覧を転載します。

終身会費納入者

平成二十一年十月二十四日から二十二年三月二十四日受付まで

- 〔中十六回〕 古川 秀臣
- 〔高九回〕 飯田 繁
- 〔高十回〕 川野 忠
- 〔定夜五回〕 鈴木 孝典
- 〔高十一回〕 小田嶋公子
- 遠藤平次郎
- 吉野 郁子
- 渡辺 一生
- 〔高十三回〕 竹蓋 勝子
- 萩本 洋
- 〔高十四回〕 斉藤 莞爾
- 〔高十五回〕 笠井 怜美
- 柴田 麻男
- 〔高十六回〕 伊藤 民雄
- 布施 忠
- 〔高十七回〕 飯島 祥邑
- 大木はる子
- 実川 良子
- 越川 淑枝
- 〔高十八回〕 向後 孝生
- 古仲 祀子
- 〔高十九回〕 伊藤 剛
- 秋葉 美江
- 〔高二十回〕 加瀬 武敏
- 森島 京子
- 〔高二十一回〕 牧野 博子
- 高梨 智
- 原田 典子
- 〔高二十六回〕 松本由美子
- 〔高二十七回〕 飯島 祥邑

年会費納入者

平成二十一年十月二十四日から二十二年三月二十四日受付まで名前の下の数字は納入していただいた年数を示します。

- 青木 茂子
- 〔高二十八回〕 大川 哲夫
- 〔高二十九回〕 高野美津江
- 越川 庸一
- 〔高二十六回〕 椎名 真理
- 〔高二十七回〕 畔蒜干枝子
- 宇野 秀
- 菅谷 明江
- 〔高二十八回〕 加瀬 賢一
- 柴田 純子
- 〔定夜三十七回〕 五木田直也
- 〔高四十五回〕 浪川 彰
- 〔高四十六回〕 片山 貴之
- 〔高四十九回〕 伊藤奈穂美
- 佐藤有里子
- 〔高五十一回〕 渡邊 真希
- 〔高五十二回〕 栗田 桂輔
- 〔高五十四回〕 岡野 浩幸
- 〔高五十六回〕 鎌形 邦男10
- 〔高八回〕 八本 輝2
- 〔高十一回〕 加治屋豊子5
- 〔高七回〕 内藤扶桑男5

- 湊川 達5
- 〔高十二回〕 小林 よし10
- 齋藤 輝政5
- 〔高十三回〕 小池千代子5
- 戸村 忠夫10
- 平山 匡男10
- 〔高十四回〕 小川 也人5
- 古関 正勝10
- 〔高十五回〕 林 啓司5
- 〔高十六回〕 佐藤 正10
- 大塚百合子10
- 服部 俊弘10
- 平山 紀雄10
- 〔高十七回〕 大木 行男1
- 林 鋭夫1
- 〔高十八回〕 岩崎 悦子5
- 土屋 洋子10
- 芝野 武彦10
- 絵鳩 寛10
- 渡辺 孝俊10
- 〔高十九回〕 金杉 邦彦5
- 〔高二十回〕 泉川 伸子10
- 伊知地良洋1
- 大久保隆章3
- 香取 克男5
- 平山 栄子10
- 大木 泰枝3
- 宮田 信二5
- 〔高二十一回〕 菅谷 実3
- 〔高二十二回〕 松田 範子10
- 〔高二十三回〕 内貴喜一郎5
- 山本まゆみ5
- 松村 光雄10
- 〔高二十四回〕 穴澤 和子5
- 田中 英子5
- 〔高二十五回〕 中村 正平10
- 及川 博1
- 錦木 友孝1
- 日色 錦次5
- 〔高二十六回〕 江澤由美子5
- 粟野 智10
- 〔定夜二十回〕 土屋喜久枝5
- 〔高二十七回〕 林 秀直10
- 〔高二十八回〕 伊藤 正好5
- 勝又 好美1
- 渡辺 浩子10
- 〔高三十回〕 高橋 孝二1
- 山本 和弘5
- 〔高三十一回〕 江波戸恵子5
- 〔高三十二回〕 安藤 正彦1
- 加瀬 勝美10
- 〔高三十三回〕 梅田 勝之5
- 〔高三十四回〕 越川 幸子1
- 〔高三十五回〕 伊藤 寿洋5
- 〔高三十六回〕 金子 和仁10
- 林 晁彦1
- 〔高三十八回〕 大川信一郎1
- 佐藤 鈴子5
- 〔高三十九回〕 石見 輝男5
- 〔高四十回〕 佐藤まゆみ10
- 崎山 博之1
- 〔高四十一回〕 大川 優1
- 遠藤 正和1
- 〔高四十三回〕 芦田 優子5
- 〔高四十四回〕 石橋 康1
- 山田 英樹5
- 〔高四十六回〕 石橋 祥光3
- 八木 幸生10
- 〔高四十七回〕 石井 久子5
- 伊東三佳子5
- 〔高四十九回〕 石毛 真志10
- 〔高五十回〕 〔高五十一回〕 〔高五十二回〕 〔高五十三回〕 〔高五十四回〕
- 〔高五十四回〕 〔高五十五回〕 〔高五十六回〕

**第65回国民体育大会
弓道競技会開催される**

十月三日、匝瑳高校弓道場で開催された競技会で、匝瑳高校三年の大谷隆介君と木川寿眞君の二名を含むチームが、近的少年男子の部で二位の成績に輝きました。



近的少年男子チーム（千葉）

- 〔高四十四回〕 石橋 康1
- 山田 英樹5
- 〔高四十六回〕 石橋 祥光3
- 八木 幸生10
- 〔高四十七回〕 石井 久子5
- 伊東三佳子5
- 〔高四十九回〕 石毛 真志10
- 〔高五十回〕 〔高五十一回〕 〔高五十二回〕 〔高五十三回〕 〔高五十四回〕
- 〔高五十四回〕 〔高五十五回〕 〔高五十六回〕

終身会費納入者

平成二十二年三月二十五日から
九月二十二日受付まで

- 〔中九回〕 並木 勉 及川 晃慶
- 〔高一回〕 椎名善治郎 白鳥 健一
- 〔高二回〕 遠藤 寛之 宮内 秀
- 〔定昼一回〕 齋木 満義 桜井 芳久
- 〔高九回〕 松本たか子 宮田 信二
- 〔高十回〕 内藤 良子 加瀬 博道
- 〔定昼六回〕 飯島 義 松田 範子
- 〔定夜六回〕 宮内 正己 河野 幸男
- 〔高十三回〕 竹内 通代 遠藤 和宏
- 〔高十四回〕 鎌形 寿男 原田 麻子
- 〔高十五回〕 佐瀬 きみ 齊藤 三夏
- 〔高十六回〕 小林久右衛門 柴田 俊雄
- 〔高十七回〕 牧野 敏夫 馬場由美子
- 〔高十七回〕 布施 洋子 清水よしの

年会費納入者

平成二十二年三月二十五日から
九月二十二日受付まで
名前の下の数字は納入していた
だいた年数を示します。

- 西坂 美咲 (高五十八回)
- 斉藤優美子 椎名明日美
- 土屋 智也
- 小西 正雄 2
- 成澤 澄子 2
- 木村 良雄 1
- 菅谷 良民 1
- 井橋 光信 10
- 川口 哲也 5
- 佐伯 清衛 10
- 大木 安洋 10
- 志賀 淑子 10
- 根本 澄江 5
- 阿部 孝 5
- 鈴木美智子 10
- 岩崎 悦子 5
- 伊藤 進 5
- 林 晴美 5
- 神原 博見 10
- 加藤 文子 1
- 渡辺 孝俊 10
- 土屋 俊夫 1
- 野本 哲子 10
- 宇井 照子 1
- 茂呂 和枝 10
- 半田ひで子 2
- 山本 陽子 5
- 伊藤 正樹 5
- 越川 信男 5
- 高橋 和子 10
- 竹内 明子 5
- 嶋田 時男 10
- 菅谷 実 5
- 高木 諭 5
- 齊田 英代 10
- 佐々木信子 5
- 内貴喜一郎 10
- 伊藤 和明 1
- 向後喜美子 1
- 柳瀬 静代 5
- 山邊 和昭 5
- 勝又 好美 1
- 押田 明裕 1
- 高橋 孝二 1
- 石田 泰 5
- 飯島 紀子 15
- 高橋 伸斗 10
- 石田 真 5
- 桜井 隆宏 1
- 大川信一郎 1
- 丸山恵美子 5
- 石見 輝男 5
- 崎山 博之 1
- 佐久間俊成 10
- 遠藤 正和 1
- 中西 亜弥 1
- 石橋 康 1
- 鈴木 匡 5
- 鈴木 尚 5
- 中西 大典 1
- 大木 俊洋 5
- 村山 利典 10
- 上原 昌也 5
- 橋本 正貴 10
- 柳 翔太 1
- 渡邊 未来 5
- 大野真莉菜 5

匝瑳高校同窓会のホームページを見たことがありますか？
ヤフーやグーグルで

匝瑳高校同窓会

検索

で、みることができます。
試して『見て』ください。
『さふさ』のバックナンバー
も 35 号から見ることができ
ます。



国民体育大会受賞者
大谷 隆介君(右)
木川 寿真君(左)

編集後記

「さふさ」第42号をお
届けします。

今号の編集作業の頃は
国体の弓道競技大会が開
催中でした。全国から選
手や役員が集い、弓道場
のある本校グラウンドには
いくつものテントが立ち
並び、盛況でした。

また、今回の原稿整理
や校正では、鈴木勝彦会
長をはじめとする高18回
のみなさんにご協力いた
だき、ありがとうございました。
皆さまからの原稿をお
待ちしています。



《第42号編集委員》

- 馬淵 英夫 (高10)
- 品村 晃祥 (中14)
- 平山 武彦 (高7)
- 綿貫ひろ子 (高8)
- 米本 雅男 (高10)
- 富澤 汎子 (高11)
- 川口 克己 (高15)
- 岩瀬 道治
- 鈴木 勝彦 (会長/高18)